

平成26年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成26年4月22日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 数学B〕
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

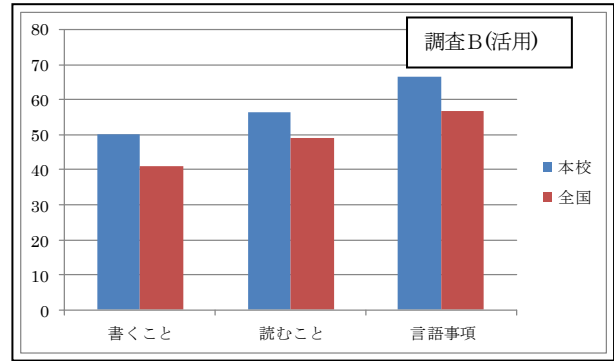
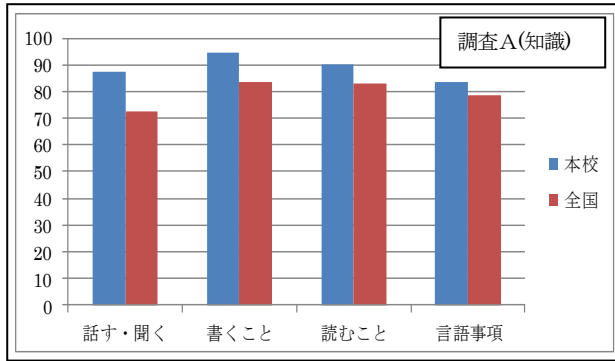
全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



各領域で全国平均を上回った。特に「書くこと」においては、調査Aでも、調査Bでも大きく上回っている。記述式の問題における無回答が少なく、難しい問題も諦めずに考えようとする態度が、高い正答率につながっていると考えられる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・「話す・聞く」領域では、「発表の仕方や話し手として適切な発言を吟味する」設問は正答率が高い。しかし、「相手の話を聞いて内容を検討する」設問において、正答率が低い傾向が見られる。要点を捉えて聞く力をつける必要がある。

書く

・A問題では全体的に正答率が高く、日々の書き慣れの効果が出ていると思われる。B問題の「資料から適切な情報を得て伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く」設問での正答率が、やや低かった。情報を適切に読み取る力と、事実と意見を区別して書く力が、これまで以上に必要である。また、伝わりやすい言葉を選ぶための語彙力も必要となる。

読む

・どの設問も無回答がなく、設問に対して諦めずに題意を読み取ろう、よく考えて答えを求めようとする意欲は高いと思われる。A問題、B問題ともに全国平均を大きく上回っているが、特に低い正答率だったのが「複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること」を問う設問である。何をするために資料を読み取るのか、「目的を明確にした読む力」をつけていく必要がある。

言語事項

・漢字の読み書きや、ことわざの意味を問う設問は、全国平均を上回った。特にことわざ・四字熟語などの「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う能力」は非常に高い正答率であった。しかし、漢字の書き取りについては「招待」という字が書けておらず、また無回答もあった。日々の課題や友愛、放課後学習を活用して、語彙力を確かなものにしていく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業をはじめ、ブロック集会や朝の会などで、自分の考えを発表し意見交流する場を数多く設定しています。その際、聞き取りメモを取りながら聞き取り、意見交流をすることで、話のポイントを押さえています。そうすることで、友だちの意見を聞くことができる、自分の意見を発表などのコミュニケーション能力の習得を目指します。
- 朝の読書や地域のボランティアの方々による読み語りをを行うなど、読書を推進しています。読書に親しむ態度を育てることで、考え方の視野を広げることはもちろん、読む力・聞く力を養います。
- 授業においては、その時間のふり返りを行っています。何を学習したか、何が理解できたかを明確にさせることで、学習内容の確実な定着を図ります。
- 毎時間の小テストや友愛で実施するテストで、漢字・語彙力の向上を図ります。

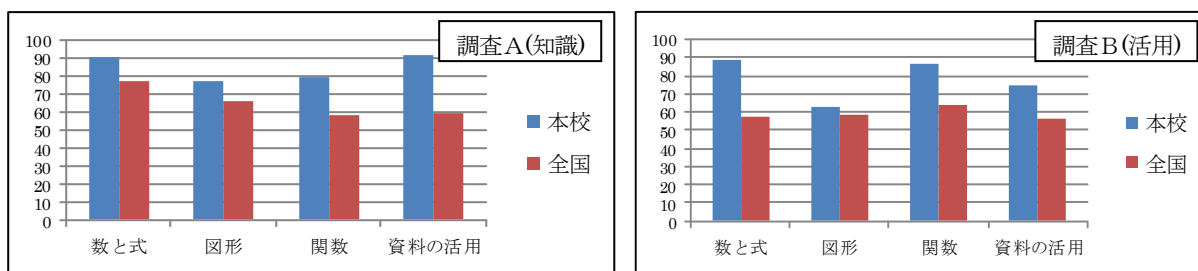
【ご家庭では】

- 本に親しむ機会を増やしましょう。本に書かれているいろいろな表現や、著者や登場人物の考えに触れることで、語彙力を高めたり、知識の幅を広げたりすることができます。
- お子さんが日ごろから日記などをつけるのもお勧めです。習慣化すれば「いつ、どこで、何をした」という文章の基本を自然と身に付けることができ、文章力を高めることにつながります。
- 試験では、限られた時間内に、正確に読み取る力が必要になります。学習プリントや問題集などを活用して、読み取る力が必要な問題に、限られた時間で答える力をつけることも大切です。

2 数学

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題とも、どの領域も、問題形式別も全国平均を大きく上回っている。しかし、設問ごとの正答率を見ると、全国平均を下回っている問題が5問ある。用語や定理の理解が不十分であるため正答に結びつかない傾向や、理由や方法を適切に記述することができていない傾向が見られた。

(2) 成果と課題

数と式

・計算問題のうち半数は全生徒が正答するなど、A問題、B問題とも全国平均かなり上回った。小・中で取り組んできたスキルタイム(友愛)の効果が、数学の内容の理解と習得にも大きく表れている。設問ごとには、指数の計算、絶対値の意味など、練習量の少ない計算や用語については、定期的にふり返りが必要である。

図形

・図形領域のA問題は、全国平均を大きく上回ったが、「三角形の外角について、正しい記述を選ぶ」問題だけは、全国平均を下回った。図形の回転移動、三角形の内角と外角の関係、多角形の内角の和に関する問題の正答率はいずれも全国平均に近く、図形領域の定義や公式・性質についての理解を補う必要がある。

関数

・関数領域は、A問題、B問題とも全国平均をかなり上回った。唯一下回ったのは、言葉や図を用いて問題解決の方法を説明する記述式の問題だった。関数の意味、変化の割合の復習も必要である。

資料の活用

・A問題、B問題ともに全国平均をかなり上回り、A問題のうち3問は全生徒が正答であった。しかし、階級値、最頻値、中央値、範囲など、出題頻度の少ない用語の理解を確実にしておく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 月曜日のスキルタイム(友愛)では、「すくすくテスト」を活用し、基礎・基本について単元ごとの確実な習熟をめざします。各テストの間違った問題は、必ずやり直しをさせます。
- 授業では、友だちの考えを聞いたり、自分の考えをまとめたり、他の人に伝えたりする言語活動を多く取り入れ、数学的な見方や考え方を育成し、活用力を高めます。
- 学習ワークの指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭学習の課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんが今どんな学習しているのか、理解できているのか、問題を解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ワークやプリント等の宿題で困っていることはないか、テストはどのくらいできているか、を把握しましょう。そしてたくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。
- 算数・数学は積み上げの教科ともいわれるように、らせん階段を上がるかのように、既習の学習の上に新しい学習を積み上げていきます。数学好きにするには、「時間はかかったけど自分の力で問題が解けた。」「途中であきらめずに一生懸命考えて自分の答えを出した。」「この前は、間違っただけど今度はできた。」「数学の問題集を全部仕上げた。」という経験をさせるのが一番です。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べています。	100.0	83.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ています。	50.0	29.6
平日、ゲームをするのは1時間以内である。	83.3	43.5
携帯電話やスマートフォンを持っていない。	100.0	23.5
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。(当てはまる)	0.0	15.7
友達に伝えたいことをうまく伝えることができる。(当てはまる)	0.0	22.3

朝食・起床・就寝については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。給食も好き嫌がなく、毎日完食できている。実際、学校でも具合が悪くなり、保健室へ行くこともほとんどない。家庭の協力によるものである。

ゲームや携帯電話についても、全国平均より良い結果であったが、まだ長時間テレビを視聴する生徒もいるようである。

友達の話聞くことはできるという生徒がほとんどであるが、①人前で発表したり、②意見を伝えたりすることにはやや自信がないようで、「どちらかと言えば当てはまる」と控えめに答えた生徒が、①66.7%、②50%となっている。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	50.0	35.1
休日2時間以上勉強している。	83.3	40.3
家で、自分で計画を立てて勉強している。	0.0	15.3
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	0.0	34.4
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	83.3	50.5

学習時間は、平日、休日ともに2時間以上勉強している生徒の割合は、全国平均を上回っている。また、家庭学習で授業の復習をしていると答えている生徒の割合も全国平均を上回っている。

しかし、自分で計画を立てて勉強している生徒は、「どちらかといえばしている」は66.7%だが、確実にしている生徒は0%であり、また、家庭学習で授業の予習をしている生徒は、「どちらかといえばしている」も含めて0%である。毎日時間をかけて学習に取り組んでいるものの、積極的に学習に取り組む姿勢としてはもう一歩である。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「自主学习（自学）」を宿題として出しています。今年度から帰りの会で、その日の家庭学習計画を立てさせています。時間をかけた、内容の充実した自学ノートを提出する生徒が増えてきています。
- コミュニケーション能力を向上させるために、毎日の朝の会、毎月のブロック集会、委員会活動等の様々な場面で、スピーチ活動（原稿を見ずにスピーチ）を行っています。各自が何事にも挑戦する気持ちで臨めば、人前での発表に自信を持てるようになると思います。今後も継続していきます。

【ご家庭では】

- 「学習の手引き」を配布しています。各教科の授業への取り組み方と、家庭学習の取り組み方が掲載されています。これも参考にされて、毎日家庭学習に取り組むお子さんへのアドバイスをお願いします。
- ご家庭での手伝いや隣近所とのお付き合い、地域行事への参加など、様々な社会経験をさせるとよいでしょう。家族との会話や地域の人々との交流を通して、子どもたちのコミュニケーション能力が高められ、自分に自信が持てるようになると思います。子どもたちが1つ成長したら、その度にみんなで励ましたり褒めたりしてあげてください。